

「旧吹屋小学校校舎」平成～令和の大修理！

— 令和4年4月一般公開への道のり ② —

校舎の傾きを防ぐために地盤補強へ

本館土台は全体的に南東に向かって約10センチメートルも沈下していました。今後も地盤の沈下が起こるかもしれないので、その影響を抑えるには徹底した地盤補強を行う必要がありました。つまり文化財の建物をのせる“頑丈な地盤”を作り出すというわけです。

工事では、基礎の撤去後に地面全体を約1.5メートル掘り下げ、全面に厚さ約25センチメートルの鉄筋コンクリート造の直接基礎(べた基礎)を打設し、さらに割石積布基礎や柱石などの下は厚くして土手状にしました。その上にモルタルを使いながら石を元のよう

に置いていきました。土台が出来上がると、いよいよ建物を再び組み上げていきますが、その前には、材料の補修や加工が必要でした。(次回へ続く)



鉄筋コンクリートによる地盤補強



割石積布基礎の再構築



柱石・束石の再構築

☎社会教育課 ☎ 21-1516



「ジャパンレッド」発祥の地—弁柄と銅の町・備中吹屋— ⑬

日本遺産に認定された『ジャパンレッド』発祥の地—弁柄と銅の町・備中吹屋—のストーリーを構成する文化財を紹介します。

「延命寺」未指定有形文化財(建造物)

延命寺は、吹屋の下谷地区にある曹洞宗の寺院です。永正2(1505)年の創建とされ、山号は若杉山、本尊は十一面観世音菩薩で、吉岡銅山や弁柄製造に携わった吹屋の豪商から篤く信仰されていました。

また、戦国時代の永禄年間(1558～1569年)に銅山を支配した出雲の大名・尼子氏ゆかりの寺ともいわれ、山門には尼子氏と同様の家紋「平四ツ目結」の鬼瓦が用いられ、同じく尼子氏が築いた黄金山城(吹屋下谷)に在城した武将・吉田兼久の位牌も安置されています。



延命寺本堂



延命寺山門 山門の鬼瓦



☎高梁市日本遺産推進協議会事務局(日本遺産・歴まち推進室) ☎ 21-0257